



ひだまり便り

第46号〈平成26年2月号〉
特定非営利活動法人
ひだまり
理事長 小関 茂

特定非営利活動法人ひだまり事務所…〒263-0005 千葉市稲毛区長沼町32番地

TEL 043-258-8604 FAX 043-310-5061

E-mail…hidamari@almond.ocn.ne.jp ホームページ… <http://www.hidamari.or.jp>

理事長より

ひだまり理事長 小関 茂

平成25年も日本の国内外に多くの課題を残して過ぎ去りました。一月遅れになりましたが平成26年を迎えまして本年も宜しくお祝い申し上げます。

昨年は大晦日の夜8時過ぎに川崎大師様で一年の納め参りをいたしました。私は横浜で生まれ育ったのですが、何故かこれまでご縁がありませんでした。因みに川崎大師は通称で正式には金剛山金乗院平間寺といい真言宗智山派大本山ですが、智山派関東3本山の一つで他の2つは成田山新勝寺と高尾山薬王院であると今回初めて知りました。最寄りの川崎大師駅からの長い表参道沿いには屋台の夜店が沢山出ていて、仕込みを始めているところもあれば、店番もないでひっそりしている店などいろいろでした。参道沿いの商店も徹夜の構えで、開店は夜中の0時ですという札をぶら下げている食べ物屋も多かったです。

肝心のお大師様は初詣では未だ早く人も少ないのではと思ったのですが、中々どうして拝んでいる人たちがそれなりに賑わっていました。私たち一家3人も行く年に感謝をし、迎える年の幸せを願って皆様の分までしっかりと参拝してきました。初詣でまで頑張らず帰り道の参道で名物の久寿餅を買い、久しぶりに自宅でテレビ中継の除夜の鐘を聞きながら年を越しました。

さて、昨今知的障害の話題ではなんとと言っても「千葉県袖ヶ浦福祉センター養育園」の障害者虐待事件ですが、さらに併設の「更生園」でも虐待事例が発覚し、すでに多くの団体から声明が出されました。今回、私が一番残念に思うのは未だに力づくで言うことを聞かせようとする体質があったことです。そして、知的障害者の一番の味方であるはずの身近にいる職員が虐待を行い、周囲の職員も止められませんでした。たとえ重度の障害者で意思の疎通が困難を極めていたとしても決して理由にはならないでしょう。組織がそしてその長が障害者虐待防止法をどのように受け止めていたのか、改めて自戒の気持ちを強く持ちました。

折しも1月20日に我が国は「障害者の権利に関する条約」の140番目の締結国になりました。障害者の権利の実現に向けた取り組みが強化され、人権尊重が一層推進されることを願ってやみません。

■ ひだまり主催第8回成年後見セミナーを開催しました ■

毎年恒例になりました成年後見セミナーを、1月19日に長沼原勤労市民プラザで75名の参加者を得て2部構成で行いました。

第1部 千葉市成年後見支援センターの取り組み … 支援センター石毛秀和所長

支援センターは、あおばの森公園の近くにある千葉市ハーモニープラザ内の千葉市社会福祉協議会に所属しており、制度の啓発、利用相談、市民後見人育成、法人後見受任などを行っています。セミナーではこれまでの支援センターの取り組み状況、国や千葉市での後見制度の進展と現状について説明していただきました。



千葉市社協が法人後見を行う意義としては、公共性があり信頼できること、きちんとした経営基盤と支援の継続性があることです。また、生活に困窮している方には市長申立てによる後見受任や成年後見利用支援事業による後見報酬の助成もあり、成年後見について詳しく知りたい方や疑問のある方は気軽に相談に行かれるとよいと思います。

市民後見人育成については、センター発足以来養成研修を実施し、既に市民後見人候補者を55名育成し、さらに養成研修受講者が第3期・4期合せて52名在籍し、これから後見人受任につなげていくことが課題のようです。

法人後見受任数は、現在12件及び手続き中が5～6件とのことですが、高齢者並びに知的障害者の後見需要の受け皿として今後の活動の進展を期待したいものです。

第2部 多様な人々が一緒に暮らす新たな福祉系複合住居

…千葉大学工学部 小林秀樹教授、丁 志映助教、小林研究室修士5名

平成25年1月に「研修・懇親の集い」で発表された内容に加え、その後父の樹会との検討を重ね、建設地の具体的な場所を想定した新しい提案をお聞きました。

始めに小林教授から平成24年春に父の樹会の有志から、「知的障害者の家族が安心して長く暮らせる住まい」についての検討依頼を受けたことが、このテーマに取り組むきっかけであったことが紹介されました。

丁助教からは「障害のある人とない人の様々な住まいの実例」として、「成田シェアハウスはなみずき」など複合住居の実践に取り組む4施設の事例紹介がありました。

修士の皆さんからは共同研究の成果である「知的障害者、その家族、一般家族が共同生活を送る福祉系複合住居」の建設計画として、具体的な建設場所を基に定期借地権活用による2つの案が発表されました。何れの案も4階建てで1階は知的障害者のグループホームと共用スペースとなっています。

第1案はグループホーム＋コーポラティブ住宅で、住宅は建設組合の形で応募した入居者が共同で分譲住宅10戸を購入、住居部分の間取り等は入居者による自由設計です。

第2案はグループホーム＋サービス付き高齢者向け住宅で、20戸ある居室は入居者が毎月賃貸料を払うタイプで、高齢の単身者・夫婦が安心して利用できるサービスを提供する住まいです。

セミナーではこの計画案に対するアンケート調査も行われ、福祉系複合住居の提案に対する意見と計画案への参加の意向を伺う内容でした。当日の参加者だけでは調査数として少ないので、さらにアンケート調査を進めてまいります。事務局から依頼を受けた方はご協力をお願いします。



■ ひだまり主催 第2回知的障害者移動介護従事者研修を開催します ■

次の日程で上記ガイドヘルパー養成研修を実施します。

座学 2月16日(日) 9:00～18:10 長沼原勤労市民プラザ

2月23日(日) 9:20～17:35 同

実習 3月9日(日) 9:00～16:00 マザー牧場

受講料 7,000円

受講ご希望の方はこの機会にご参加ください。

〈申し込み・問い合わせ Tel:043-258-8604 高柳 〉

